

「日本の活力創造総合戦略」中間取りまとめ（概要）

—若者に夢を・日本に希望を、日本の可能性に挑戦—

平成20年6月10日

1. 基本的な考え方

日本の活力を創造するには、内需の拡大が重要となるが、従来型の枠組みでは限界があり、新たな発想に基づく「新需要創出型の内需拡大策」が必要。

そこで、日本の強み、わが国に眠っている力を活かし、これまで捉えきれない新時代のニーズをつかむことに着目。

具体的には、大きな潜在的ニーズがある領域を5つ特定し、それを新需要へと変えるための政策パッケージを検討。

新たな社会的価値を生み出すことによって、新たな需要をつくり、わが国の成長力を引き上げ、活力を創造。

この総合戦略によって、新たな雇用機会を創出し、若者に夢を与える。また、地域経済を支えるサービス業や農林水産業に対する新たな内需拡大、日本が持つ世界の技術の世界市場への展開を具体化する政策提案等を通じて日本全体に希望の道を示す。

2. 検討経緯

党内に、「日本の活力創造特命委員会（谷垣禎一特命委員長、根本匠座長）」を設け、現場で先進的な活動に汗を流されている有識者の提言もいただきながら、13回にわたり議論。

骨太「2008」に反映させるとともに、実施可能なものはすぐに実行に移すよう、政府に要請。また、党として積極的に対外発信を行う予定。

3. 新需要創出・成長力引き上げへの五つの突破口

柱1：「環境技術先進立国戦略」

—特に環境に関して、「課題解決先進国」となるべく技術革新と事業化を集中支援し、世界のクリーンエネルギー産業を創造。

- 世界の先端技術群の開発（先進原子力発電、次世代自動車、革新的太陽光発電など）
- 環境にやさしい日本型住宅モデルの発信（エコハウスなど）

柱2：「メイドインジャパン拡大戦略」

—サービスや農業分野等の内需型産業に関し、新しいステージの Made in Japan（信頼・安心感や文化に裏付けされた高い付加価値）を生みだし、これまでにない外需をアジアを中心に獲得する。

- 文化と組み合わせた新時代の食産業の創造と輸出拡大
- ジャパンファッションのトレンド発信（ファッション専用翻訳エンジンの構築など）
- 日本e物産市（地域・起業家と都市・世界をつなぐ）

柱3：「新世代資源戦略」

—資源と食料インフレにより、価格競争力が復活し再評価されている。米・木材・エネルギー・鉱物資源・水に関し、価格の高騰というピンチをチャンスへと変える戦略を実行。

- 米の新需要創出プラン（米飯の需要拡大、米粉、飼料米等、輸出、技術開発）
- エネルギー・資源の自給率の向上、攻めのレアメタル戦略

柱4：「国民生活のための規制改革戦略」

—安全・安心、医療、環境に関する新技術と市場との壁の改革と規準のスピーディな整備など、国民生活にやさしい規制改革。

- 各種ロボットの安全基準づくり—「ロボット実証実験都市」—
- 環境へのやさしさの見える化（「カーボンフットプリント（炭素の足跡）」）

柱5：「新需要創出を支える交通、地域コミュニティ、人財インフラ」

—交通システム改革、次世代の地域コミュニティ、新需要開拓に挑む人材育成など。

- アジア・ゲートウェイ構想推進の加速（航空のイノベーションなど）
- 挑戦する地域コミュニティ（「ベンチャー・コミュニティ」）への支援